令和３年２月２６日
東京都教育委員会

令和２年度研究開発委員会「人間と社会」部会

研究主題　　「人間と社会」における探究的な学習の指導の在り方

Ⅰ　研究の目的

１　教科「人間と社会」の現状と課題

（１）現状について

道徳教育とキャリア教育を一体的に学ぶ教科として、平成 28 年度から全都立高等学校及び中等教育学校後期課程において１単位の必履修（学校設定科目又は「総合的な探究の時間」の代替）で実施

学習方法：価値の理解を深める学習、選択・行動に関する資質・能力を育成する学習、体験活動など

育成する力：道徳性を養い、判断基準（価値観）を高めることで、社会的現実に照らし、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力

（２）社会的背景

①変化の激しい社会、Society5.0 時代に対応できる資質・能力の育成、道徳教育及びキャリア教育の在り方について検討が必要になった。

②平成 30 年３月に学習指導要領が改訂され、「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」となり、生徒自身がよりよく課題を発見することや探究のプロセスを明らかにすることが必要になった。

③「人間と社会」において育成する資質・能力が、令和元年度に改訂された東京都立高等学校教育課程基準・資料で次のとおり示された。

> ⑴ 予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。
> ⑵ 社会的現実に照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会との関わりから課題を見いだし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
> ⑶ 演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いのよさを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

（３）課題について

上記（２）のとおり、新しい学習指導要領や基準・資料に適合した教材の開発が必要となった。

２　研究主題の設定理由

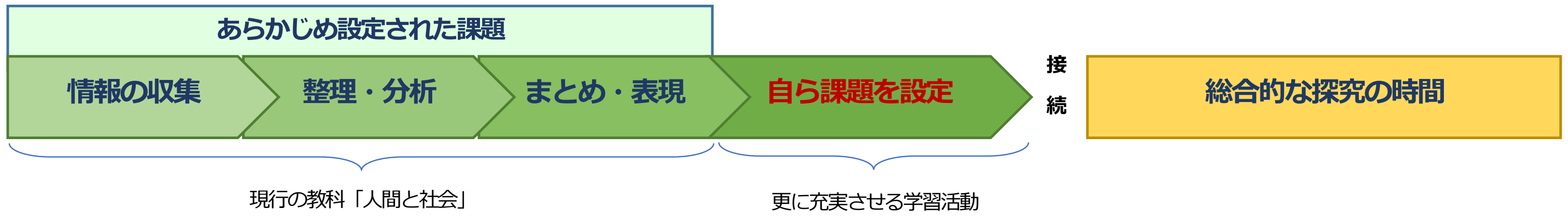
本部会では、「自ら課題設定ができる力」に焦点をあてた「探究的な学習の指導の在り方」を研究主題とした。

Ⅱ　教材の開発に向けて

１　研究の視点

教科「人間と社会」では、あらかじめ設定された課題について理解を深め、課題を解決するためにはどうしたらよいかを考えさせてきた。

本部会では、これまでの価値の理解を深める学習や選択・行動に関する資質・能力を育成する学習に加え、課題（リサーチ・クエスチョン）の設定ができるようになる学習活動を充実させることにより、改訂された東京都立高等学校教育課程基準・資料で示された資質・能力を育成し、「総合的な探究の時間」への接続を視野に入れて議論した。



２　研究の仮説

研究の視点を踏まえて、次のとおり仮説を設定し、教材の開発と指導方法の改善に取り組んだ。

> 教科「人間と社会」で取扱う教材の学びで生まれた疑問点を文章化して「問い」を立て、その「問い」を洗練し、課題（リサーチ・クエスチョン）にする学習活動を行うことにより、自ら課題を発見し、解決する資質・能力を育成することができる。

３　具体的方策

（１）テーマごとの学習のまとめの段階で、学びを通して生まれた疑問点から「問い」を作成する活動を取り入れた教材を作成する。

①単元の基本的な内容に関する学び	②形成された判断基準を高める学び	③人生の諸場面を想定し、選択・行動する力を育成する学び	④学びを通して生まれた疑問点から「問い」を立てる学び
・《問いかけ》 テーマへの理解の深化	・《コラム》 自らの考えを考察、議論により価値を高揚	・《ケーススタディ》 選択・議論により選択・行動する力を高揚	・《チャレンジ》 疑問点を文章化し、探究的な活動の課題を設定

（２）生徒がテーマごとに作成した「問い」を更に内容を深めることのできる課題（リサーチ・クエスチョン）へ洗練し、指導のポイントをまとめた資料集を作成する。

Ⅲ　開発した教材・検証授業

1　開発した教材等について

（1）現代的な課題を取り入れた章の設置
　　…生徒の興味・関心を喚起する教材の開発
（2）「チャレンジ～疑問や不思議を言葉（又は「問い」）にしてみよう～」
　　…学びを通して生まれた疑問点を文章化し、「問い」を作成するための教材を開発
（3）「次のステップへ進もう～探究に向けて～」
　　…生み出した「問い」の中から一つ選び、課題（リサーチ・クエスチョン）の設定につなげるための教材を開発

（例）新章・消費者市民社会

【本文】
「エシカル消費」について考えたり、話し合ったりすることができるよう内容を工夫

【コラム】
「フェアトレード」「サスティナブル」等に関するコラムを設定し、自分の考えをまとめ、議論することにより、自分の価値観を高められるよう内容を工夫

【ケーススタディ】
学校行事におけるＴシャツ作成について、どのような商品を選択するかを考えさせ、行動する力を育成できるように内容を工夫

（1）「新章　消費者市民社会」

「チャレンジ～疑問や不思議を言葉（又は「問い」）にしてみよう～」

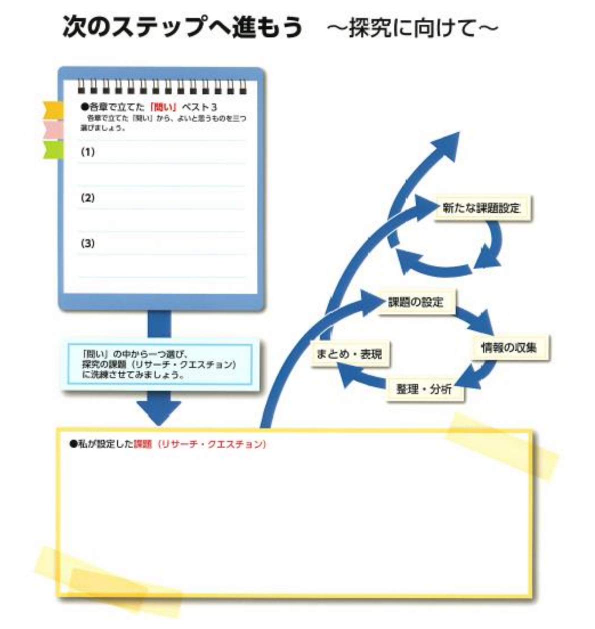
①この章の学習を通して、「〇〇」についてどのように考えますか。

②どうして、そのように考えたのですか。

③そこから生まれたあなたの疑問を３点挙げてみましょう。

④グループになって、更に深めてみたい疑問を選んでみましょう。

（２）「チャレンジ～疑問や不思議を言葉（又は「問い」）にしてみよう～」



（３）「次のステップへ進もう～探究に向けて

2　検証授業について

1　単　元　　消費者市民社会とは
2　教　材　　「人間と社会」改訂版教科書試行版テキスト
3　ねらい　　疑問に思ったことから「問い」を生み出し、生徒同士の対話や協議を通して、自ら生み出した「問い」を磨き、洗練する。
4　指導計画

①　内容の理解を深める学び ②　判断基準を高める学び	問いかけ・コラムの個人検討 問いかけ・コラムのグループ検討 発表によるホームルーム全体共有
③　選択・行動する力を育成する学び	ケーススタディの個人検討 ケーススタディのグループ検討 発表によるホームルーム全体共有
④　「問い」を立てる学び	チャレンジの個人検討

5　指導のポイント
（1）エシカル消費など身近な課題や現代的な課題を取り上げるなどして生徒の興味・関心をひく。
（2）消費の背景で起きている諸問題の理解を深める学習を通して、社会全体や地球規模で考えるように指導する。

6　検証結果
（1）個人活動から始めて、自分の考えを言語化し、生徒同士の協議の中で多様な考えに気付き、省察することによって、学習内容の広がりや深まりが見られた。
（2）「問い」の精度を上げるために、「単に知らないだけで、調べればすぐに分かる課題になっていないか」「何を調べればよいか絞り込まれていない課題になっていないか」など、教師のきめ細かな声掛け等の支援が必要であることが分かった。

Ⅳ　成果と課題

1　成果

（1）仮説について
　検証授業では、テーマに関する学習の後、問いを立てる学習を行った。下は生徒が立てた問いである。

【生徒が立てた問い】
- 「なぜ人間は無駄なものまで買ってしまうのか」
- 「なぜ、大量のごみが生まれてしまうのか」
- 「なぜ安さを追求してしまうのか」

　さらに、これらの問いを探究課題とするために議論を行った。下は生徒同士の議論を経て設定した課題である。

【議論を通して設定した課題】
- 「環境に良いものは、なぜ値段が高くなるのか」

　以上のように、本教材を活用した学習によって生徒は、自ら問いを立て、探究課題を設定することができた。よって本教材は自ら課題を発見し、解決する資質・能力を育成する上で効果があると考えられる。
（2）テーマについて
　エシカル消費等の興味・関心をひくテーマを教材で取扱うとともに、最新のデータを取り入れ、現代社会が抱える問題を生徒が課題として自ら設定できる教材を開発することができた。

2　課題

（1）開発した教材の効果的な活用方法や指導方法を指導資料としてまとめるとともに、研修において周知する必要がある。
（2）テーマの理解を深め、生徒が疑問を抱くような教師の問いかけが重要であり、教師のファシリテート力の育成が必要である。

委員名簿

東京都立桜修館中等教育学校	統括校長	鳥屋尾　史郎
東京都立砂川高等学校	副校長	延藤　修一
東京都立江戸川高等学校	主任教諭	下西　美穂
東京都立駒場高等学校	主任教諭	木村　裕美
東京都立千歳丘高等学校	教諭	中村　里津也

担当　東京都教育庁指導部高等学校教育指導課　指導主事　南濱　隆宏